

# 1. 生徒数の想定について（第1～2回）

- ・北杜市の中学校の状況として、現在一つの学年の生徒数は約350名であり、それぞれ8地区の中学校で学んでいる。その半数の中学校が単級であり、他は一部2学級、もしくは3学級という規模で、すべての学校が小規模校となっている。また、学年生徒数が20人以下の学年も一部で見られる。
- ・現段階では生徒数の減少は今後さらに進み、およそ10年後には一つの学年の生徒数が約200名前後となり、すべての学校において単級（一部、2学級の学年あり）になることが想定されている。

## ■ 各学校の状況（学級数は特別支援学級を除く）【令和4年度】

| 生徒数・学級数    |      | 生徒数 |     |     |      | 学級数 |    |    |    |
|------------|------|-----|-----|-----|------|-----|----|----|----|
|            |      | 1年  | 2年  | 3年  | 全校   | 1年  | 2年 | 3年 | 全校 |
| 全学年<br>1学級 | 武川中  | 20  | 15  | 20  | 55   | 1   | 1  | 1  | 3  |
|            | 白州中  | 23  | 14  | 24  | 61   | 1   | 1  | 1  | 3  |
|            | 明野中  | 23  | 28  | 30  | 81   | 1   | 1  | 1  | 3  |
|            | 泉中   | 40  | 32  | 32  | 104  | 1   | 1  | 1  | 3  |
| 一部2学級      |      | 1年  | 2年  | 3年  | 全校   | 1年  | 2年 | 3年 | 全校 |
|            | 須玉中  | 41  | 33  | 43  | 117  | 1   | 1  | 2  | 4  |
| 全学年<br>2学級 |      | 1年  | 2年  | 3年  | 全校   | 1年  | 2年 | 3年 | 全校 |
|            | 小淵沢中 | 46  | 59  | 49  | 154  | 2   | 2  | 2  | 6  |
|            | 長坂中  | 55  | 58  | 55  | 168  | 2   | 2  | 2  | 6  |
| 一部3学級      |      | 1年  | 2年  | 3年  | 全校   | 1年  | 2年 | 3年 | 全校 |
|            | 高根中  | 66  | 78  | 71  | 215  | 2   | 3  | 3  | 8  |
|            | 甲陵中  | 40  | 40  | 40  | 120  |     |    |    |    |
|            | 全中学校 | 354 | 357 | 364 | 1075 |     |    |    |    |

## ■ 今後、想定される各学校の状況【令和16年度】

| 生徒数・学級数    |              | 生徒数        |             |             |             | 学級数         |    |    |    |
|------------|--------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|----|----|
|            |              | 1年         | 2年          | 3年          | 全校          | 1年          | 2年 | 3年 | 全校 |
| 全学年<br>1学級 | 武川中          | 17         | 16          | 23          | 56          | 1           | 1  | 1  | 3  |
|            | 白州中          | 18         | 12          | 14          | 44          | 1           | 1  | 1  | 3  |
|            | 明野中          | 16         | 17          | 20          | 53          | 1           | 1  | 1  | 3  |
|            | 泉中           | 28         | 23          | 29          | 80          | 1           | 1  | 1  | 3  |
|            | 須玉中          | 28         | 28          | 32          | 88          | 1           | 1  | 1  | 3  |
| 一部<br>2学級  |              | 1年         | 2年          | 3年          | 全校          | 1年          | 2年 | 3年 | 全校 |
|            | 小淵沢中<br>(AA) | 17<br>(20) | 21<br>(20)  | 25<br>(20)  | 63<br>(60)  | 1           | 2  | 2  | 5  |
|            | 長坂中          | 38         | 48          | 53          | 139         | 1           | 2  | 2  | 5  |
|            | 高根中          | 37         | 43          | 32          | 112         | 1           | 2  | 1  | 4  |
|            | 全中学校<br>(AA) |            | 199<br>(20) | 208<br>(20) | 228<br>(20) | 635<br>(60) |    |    |    |

※ AA：アメージング・アカデミー（ ）は外数

## 2. 北杜市の中学校の現状と課題について（第1～2回）

- ・現在、北杜市の中学校においては、生徒数の減少、学年の単級化によって、様々な課題が生じている。生徒の人間関係の固定化により居場所がなくなる、多様な考え方の中で刺激し合い、切磋琢磨する環境が少ない、また、部活動が限定され、望む活動ができないなど、人との交流の中で学び合う機会が失われている状況である。
- ・しかし、小規模、少人数であることの利点も確認されている。義務教育9年間を通して、人間関係を継続し関係を築くことができ、また少人数を活かした指導が受けられる、生徒一人一人が活躍できる機会が設けやすいなどである。教科指導、生徒指導に関わる教育環境としては、現在の小規模校における個に応じた指導、生徒との密接な関係による指導ができるという反面、教科免許を有する教員が配置されない教科がある、主要教科においても担当教員が1名である学校がほとんどであり、複数の教員による組織的な指導ができないという課題も挙げられている。

### 北杜市の中学校における【主な現状と課題】

※適正規模審議会、中学校ヒアリング等での意見からまとめたもの

○甲陵中を除く8校の生徒数は50～210人、平均すると120人。半数の学校で学年単級でありすべての学校が小規模校である。また、高根地区以外は、小学校からそのまま中学校に進学している。

【参考：学校教育法施行規則 第79条 ・中学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。】

北杜市の中学校が小規模校であることによる「よさ」としては、主に

- ・小学校の人間関係を中学校に継続し深められるとともに、生徒一人一人の存在が大きく、活躍できる機会が多い。
- ・少人数学級が少人数教育につながり個に応じた学習指導が行えらるとともに、教員と生徒の距離が近く親密な関係が築ける。
- ・小学校区と同一地区では家庭や地域と連携した教育活動が継続しやすい。などが挙げられる。

一方、「課題」としては、主に次の内容が挙げられる。

- ・学年生徒数が少なく、保育園・小学校からの人間関係が中学校卒業まで続き、固定化されリセットできない。
- ・生徒数が少数であり、学び合いなどの協働的な学び、多様な学びが制限される。
- ・教員数が少なく教科担当が0～1名であることから、教科指導の深まりの機会が少なく、また生徒が様々な教師と関わる機会が少ない。
- ・学年が単級であることから学年・学校行事、生徒会活動等における学級同士の高めあいの機会が少ない。
- ・部活動の種目や内容が制限されるとともに、少人数であることで活気のある活動につながりにくい。 など

### 教科担当教員の配置例

|     |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |
|-----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 全学年 | 教科 | 国 | 社 | 数 | 理 | 音 | 美 | 保 | 技 | 家 | 英 | 計  |
| 1学級 | 人数 | 1 | 1 | 1 | 1 | ※ | ※ | 1 | ※ | ※ | 1 | 6  |
| 一部  | 教科 | 国 | 社 | 数 | 理 | 音 | 美 | 保 | 技 | 家 | 英 | 計  |
| 2学級 | 人数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | ※ | 1 | ※ | ※ | 1 | 7  |
| 全学年 | 教科 | 国 | 社 | 数 | 理 | 音 | 美 | 保 | 技 | 家 | 英 | 計  |
| 2学級 | 人数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | ※ | 1 | 9  |
| 一部  | 教科 | 国 | 社 | 数 | 理 | 音 | 美 | 保 | 技 | 家 | 英 | 計  |
| 3学級 | 人数 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 13 |

※現在、小規模校には、上記の音・美・技・家には時間講師が配置される場合もある。



### 3. 「北杜市立小中学校適正規模等審議会」が示した3案について（第2～3回）

・垂直統合は、現在の学年の規模はそのままに小規模校の利点を残し、小学校と中学校が統合、連携し、学校としての規模を大きくすることにより、小中学校の教員の乗り入れで指導を厚くするとともに、多様な学びを推進していくために、ICTを活用し隣接する学校を含め、他の学校との学び合いの機会設け、課題の解決を目指そうとするものである。

#### 垂直統合（小学校と中学校の統合）

##### ◆垂直統合のねらい

○同一地域のそれぞれの小学校と中学校を統合する。

- ・8地区ごと、もしくは複数地区の【小中一貫型小学校・中学校】をつくる。
- ・小学校と中学校のつながりを強くし、小中学校としての学校の規模を大きくする。
- ・施設の形態には【一体型、隣接型、分離型】がある。（分離型では、現状とあまり変わらない。）
- ・小中学校の教職員が、9年間の教育課程を編成し、系統的な教育を目指した教育を行う。
- ・ICTを活用し、他の学校と連携した教育を行う。

##### ◆垂直統合による教育の主なねらい

- ・小学校での人間関係をそのままに中学校で深めていく。
- ・小学生と中学生の交流を活かした教育を推進する。（児童と生徒のつながりの中で、人間関係の豊かさを醸成する）
- ・小規模校のよさを残しながら、小中統合により一定の規模化を図る。
- ・中学校の教員数は現状のままであるが、小中学校の教職員の乗り入れにより、指導を充実する。
- ・小学校と中学校の指導上の壁をなくす。（中1ギャップ）

など

#### 【第2回の意見より】

- ・垂直統合により、小中一貫教育における義務教育9年間を通じた教育課程の実施、小中学生の交流を通じた人間形成など、垂直統合のよさもあるが、学級の規模が変わらなければ現状の課題の解決は難しい。
- ・垂直統合を進めるためには、小学校の統合も検討する必要性が出てくる。

### 3. 「北杜市立小中学校適正規模等審議会」が示した3案について（第2～3回）

・水平統合は、8つの町村が合併し北杜市という一つの市になり、隣の地域にいる同級生と学び合える環境を作り出すことができることから、旧町村の中学校から北杜市の中学校へと学区を広げ、小規模校による課題を解決していくことを目指すものである。

#### 水平統合（複数の中学校の統合）

##### ◆水平統合のねらい

○現在の8校を1～2校に統合する。

- ・学年の学級数が3～4学級となることを目指す。
- ・教科教員が9教科すべてに配置される。
- ・5教科（国社数理英）の教員が複数配置される。
- ・部活動の設置種目が増え、生徒の希望に添える。

##### ◆水平統合による教育の主なねらい

- ・複数の小学校から集まることにより、さらに人間関係を広げ、社会性を高めるとともに、互いが刺激し合い切磋琢磨する関係を築く。
- ・生徒数・教職員数の増加による一定規模の集団を構成することにより、生徒の多様な興味や関心に応じた教育を推進する。
- ・学年が複数学級で構成されることにより、学年・学校行事や生徒会活動が高めあい広がりのある活発なものになる。
- ・これまでの8地区ごとの学区が、北杜市学区、もしくは複数地区の学区になることにより、北杜市全体を地域として捉えた教育を進める。
- ・教科担当が複数配置されることにより、教員の教科指導力の向上を図る。

など

##### 【第2回の意見より】

- ・中学校の現在の状況を改善するためには、水平統合を進め適正な規模にする必要がある。
- ・水平統合を進めるには、課題となる通学距離や通学時間を検討しながら考える必要がある。

### 3. 「北杜市立小中学校適正規模等審議会」が示した3案について（第2～3回）

・組合せ統合は、各学校、地区の状況に応じて、垂直統合と水平統合を組み合わせるという考え方である。

#### 垂直と水平の組合せ統合

##### ◆組合せ統合のねらい

○各学校、地区の状況に応じ、複数の中学校を統合する。もしくは、地区単位で小中一貫型小学校・中学校をつくる。

##### □水平統合の場合

- ・垂直統合以外の学校でを1～2校に統合する。
- ・学年の学級数が3～4学級となることを目指す。
- ・教科教員が9教科すべてに配置される。
- ・5教科（国社数理英）の教員が複数配置される。
- ・部活動の設置種目が増え、生徒の希望に添える。 など

##### □垂直統合の場合

- ・地区単位で小学校と中学校を統合する。
- ・学年の生徒数は少数のままであるが、小学校と中学校のつながりを強くし、小中学校としての学校の規模を大きくする。
- ・施設の形態には【一体型、隣接型、分離型】がある。（分離型では、現状とあまり変わらない。）
- ・小中学校の教職員が、9年間の教育課程を編成し、系統的な教育を目指した教育を行う。
- ・ICTを活用し、他の学校と連携した教育を行う。 など

##### 【第2回の意見より】

・垂直統合、水平統合、それぞれにメリット・デメリットがあり、場合によっては地域ごとに検討することも考えられる。その際は、今後も少子化やそれに伴う課題が進行することも理解した上で進める必要がある。